

年齢に合った しつけ をしよう

母親に依存しながら心の基礎をつくる0歳児と、
 自我の心が芽生える1～2歳児と、
 自分の意志を通そうとする3歳児と、
 なぜかということがわかり始める4歳児では、
 子どもの脳の発達が明らかに違います。
 子どもの心の発達の道筋を知り、
 子どもの年齢に見合ったかわり方をし、
 発達の段階をひとつずつ積み重ねていくことが、
 「思春期に花開く子育て」へと導きます。

...内藤寿七郎先生と原田正文先生の言葉より...



0歳児 こころの土台づくりがしつけの始まりです

- ・見つめ、声をかけ、抱っこし、おっぱいを与え、おむつを換え、子守唄を歌い、添い寝して、赤ちゃんの心を通わせ、信頼関係を築きましょう。
- ・3～4か月になると赤ちゃんは、あやすとよく笑うようになります。
心の交流をくりかえした結果、赤ちゃんの心に安心感がいっぱいになった証です。
これを**基本的信頼感**といい、この信頼感を土台にして、赤ちゃんの心が成長していきます。
- ・誰にでも笑っていた赤ちゃんが、人を区別できるようになると**人見知り**が始まります。
赤ちゃんの心が順調に育ち、「一番安心できる人はお母さん」と感じ始めた証です。
お母さんの居場所をいつも確認し、姿が見えないと不安を感じるようになります。
「そばにいるから、安心していいよ」という気持ちを伝えながら育ててください。
- ・本物のしつけは、**親子の情緒的きずな**という土台があってこそ可能なのです。
優しい気分で、赤ちゃんといっぱいコミュニケーションし、楽しく遊びましょう。

1～2歳児 めばえた自我を育み、意欲を育てよう

- ・1～2歳児は、やる気満々。自分のしたいことが優先で、ガマンや待つことができません。
- ・子どもが「したい」と意欲を示したら、**事故に注意し安全に気をくばりながら、思いっきりやらせてあげましょう**。子どもは「やりたいことができる」という体験を積み重ねる中で、喜びを感じ自信を深めていきます。そうすることで、自分のことを自分でしようとする意欲が育ち、それがひとりで服を着たり、ごはんを食べたりするなどの**身辺自立**につながっていきます。
- ・1～2歳児は、**叱ってしつける必要はありません**。
危険なことは「危ないよ、こっちのオモチャで遊ぼうね」と教えましょう。禁止しなければならないものは、子どもの目に見える場所に置かないようにしましょう。禁止する場合は、「これは、だめよ」としんぼう強く何度でも話してきかせましょう。

3歳児 親が手本となる態度を見せよう

- ・3歳児は自己主張が強く、自分の思うように行動します。まだ親や周りの都合がよくわからないので、ときに強情でわがままに見えますが、できるかぎり見守ってあげましょう。
- ・「そういう悪いことをする子は、お母さん嫌いよ」、「遊んだあとは、おもちゃをかたづけなさい」などと注意や命令をしても、けっして言うことをききません。
- ・3歳前後からのしつけは、**親が子どもの手本となる生活態度と行動を見せること**から「しつけ」を始めます。子どもは親の態度を見ながら、あいさつ、言葉づかい、公共の場所でのふるまいなどをまねして、だんだんと学んでいきます。
目で見せて、耳で教えて、させてみて、ほめてやりましょう。
「いっしょにしよう。このおもちゃここでいい？」と言うと喜んでかたづけ始めます。

4～5歳児 心のつながりの中で、言葉によるしつけを始めよう

- ・子どもといっしょに遊んだり、子どもにお手伝いをさせたりしながら、親子がともに喜び、悲しみ、驚き、残念がるなどの体験を通して、**子どもの感性を育てていきます。**
このような情緒的な心のつながりの中で、**言葉によるしつけ**を始めます。
- ・「していいこと、いけないこと」の判断や社会のルールや人としてのマナーをくり返し教えてやり、子どもの心に**良心の芽**となるものを育てていきます。
- ・4～5歳児は、言葉で「できません」と言えば「これはやってはいけないことだ」とだんだんと自分で判断できるようになります。5歳に近づくと自制の能力も強くなり、「ダメ！」の一言で理解できるようになります。子どもが我を通そうとしても、毅然とした態度を示し、妥協してはいけません。
- ・4～5歳を過ぎても自制心の弱い場合は、1～2歳のときに「ダメ」、「しなさい」と禁止や命令をくり返したり、3歳のときに甘やかしすぎたり、叱りすぎたりしたためかもしれません。しばらくは2歳児や3歳児と同じように扱って育ててあげることも必要でしょう。子育ては、間違いや失敗の連続です。気づいたら再出発しましょう。
おらかな気持ちで、肩の力を抜いて、**何度でも子育てをやり直しましょう。**

子どもの個性を伸ばし、楽しんでしつけをしましょう

- ・泣き虫な子、いたずら好きな子、甘えん坊な子、おっとりした子 ……
泣き虫な子は、感情を表現できる子です。いたずらっ子は、探求心の旺盛な子です。甘えん坊は、情緒が細やかで人付き合いの好きな子です。おっとりした子は、内面の感性が豊かな子です。このように子どもの困ったと思われる性格も、その子の大事な個性です。
- ・子どもの中に隠されているすばらしい素質を見つけ出すのが、親や保育者の役割です。
子どもの個性を見つけ、大切に伸ばしてあげましょう。
- ・「しつけ」は、親の価値観や人生観を反映させます。夫婦の間で話し合っ、育児サークル、保育園、幼稚園で知り合った友人のやり方も参考に、子どもの成長を素直に喜びながら、**楽しんで「しつけ」に取り組んで行きましょう。**

参考図書：「育児の原理」- あたたかい心を育てる 内藤寿七郎 著 アップリカ育児研究所

：「こころの育児書」- 思春期に花ひらく子育て 原田 正文 著 エイデル研究所

北九州地区小児科医会・北九州市園医会 (<http://www.kitakyu-ped.com/>)